

<浜田市内小学校 16 校の実践一覧>

学校	学年	教科等	学習・活動の名称	関係機関・団体等	頁
原井小	4	総合	浜田の海の魅力を知ろう	浜田まちづくりセンター 渚の交番 be	1
雲雀丘小	4	理科	あたたかさ生き物	三瓶自然観サヒメル	2
松原小	5	総合	浜田の海の魅力をさぐる	浜田市三隅 B&G 海洋センター、 アクアス	3
石見小	5	総合	ふるさと浜田・魅力発見！	石見まちづくりセンター	4
美川小	4	総合	内田川の水質調査	しまね海洋館アクアス	5
周布小	3	総合	くらし発見浜田のじまん	浜田港公設市場	6
長浜小	4	総合	熱田海岸の清掃	地域のボランティア	7
国府小	4	総合	こくふっこ環境調査隊 [ふるさと国府の海]	しまね海洋館アクアス 浜田市役所環境課 まちづくりセンター 渚の交番 be	8
三階小	5	総合 社会	浜田の海や水産業について学ぼう	しまね海洋館アクアス 島根県水産技術センター	9
雲城小	3	総合	カヌー体験・水辺の安全教室	三隅 B&G 海洋センター	10
今福小	2	生活	生きものなかよし大きくせん	しまね海洋館アクアス 美又まちづくりセンター	11
波佐小	全校	総合 生活 家庭	しめ飾り作り	波佐まちづくりセンター	12
旭小	3	総合	カヌー体験&水辺の安全教室	三隅 B & G 海洋センター	13
弥栄小	全校	総合	地域の良さを知ろう	渚の交番 be	14
三隅小	3	社会	はたらく人と私たちのくらし	平原柿園 白砂まちづくりセンター	15
岡見小	3・4	総合	三隅のじまんを紹介しよう	営農組合 東平原柿園 美川選果場 白砂まちづくりセンター	16

※総合：総合的な学習の時間

<浜田市内幼稚園の実践一覧>

園名	学習・活動の名称	関係機関・団体等	頁
浜田幼稚園	茶摘み体験をしよう	扇原茶園	17

令和5年度海洋教育・自然体験推進事業（小学校） 特色ある実践事例

学校名		浜田市立原井小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	総合的な学習の時間	浜田の海の魅力を知ろう
めあて・目標		魚釣り体験や藻塩作り体験、海での活動を通して、浜田の海の魅力を発見する。
関係機関・団体等		浜田まちづくりセンター 渚の交番be
実施内容（期日、場所等を含む） ※写真を挿入する。		
<p>○6月23日（金） 海岸清掃</p> <p>地域ボランティアの方や保護者の方と一緒におぼせの浜を清掃した。予想以上のごみの多さに驚くとともに、外国からの漂着物も見つけることができた。事前に行った漂流物についての事前学習も功を奏し、普段の海岸の使い方やポイ捨てをやめようという意識づけにもなった。</p> 		
<p>○7月11日（火） 藻塩作り体験</p> <p>地域で藻塩について説明を受けた後、実際に塩作りの工程を体験した。できた藻塩は、家庭に持ち帰り、各家庭で料理に利用してもらった。塩を実際に作ることで、自然の恵みへの感謝の気持ちや海がきれいだからこそ藻塩作りができることを実感することができた。</p> 		
<p>○10月11日（火） つり体験</p> <p>初めて釣りをする児童もいたが、だんだん慣れてきて全員が魚を釣ることができた。ベラ、ネブツダイ、石鯛、アイナメ、ぼっこう等いろんな種類の魚を見たり、触ったりすることで、故郷の海への興味感心が高まった。</p> 		
<p>海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）</p> <p>近くにある海について知っていることや知りたいこと、やってみたいことを話しあった後調べ活動を行った。調べたことをまとめ発表する中で、実際に体験してみたいという意欲を高めることができた。また、学習発表会で「浜田の海」をテーマに発表することで、故郷の良さ、伝統を守ろうとしている人々の苦労や工夫を再認識し、受け継ぎ残していこうと地域に発信することができた。</p>		
<p>児童に見られた変容、取組の成果や課題等</p> <p>○調べ活動や体験活動を通して、知っているつもりでいたが知らなかったことに気づくことができた。</p> <p>○釣り体験の後、家族を誘って休日に釣りに行く児童が増えた。</p> <p>○学習したことを地域に発信する場を学習発表会の他にも、増やしていきたい。</p>		

令和5年度海洋教育・自然体験推進事業（小学校） 特色ある実践事例

学校名		浜田市立雲雀丘小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	理科	あたたかさ生き物
めあて・目標		植物の観察を通して、自然への関心を高める。
関係機関・団体等		三瓶自然館サヒメル
実施内容（期日、場所等を含む）		※写真を挿入する。
<p>○5月26日実施</p> <p>三瓶自然館サヒメルに3・4年生で遠足として出かけた。</p> <p>サヒメルのプログラムを利用し、学芸員の方から、北の原（姫逃池周辺）の植物や昆虫の生態について教えていただいた。</p> <p>チョウやセミ、トンボやくもなどの生き物を捕まえたりすることもできた。学芸員の方から虫のどこをつかむとよいかなど具体的に教えていただいた。植物についてもこの季節やこの土地の草花について詳しく教えていただいた。子どもたちは、とても興味をもって観察や虫探しをしたり、見つけた虫や植物について学芸員の方に聞いたりしていた。</p>		
 		
<p>海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）</p> <p>昆虫や植物についての専門家の学芸員の方と一緒に自然散策をすることで、児童が詳しい知識を得たり、興味をより高めたりできるようにと考えた。</p>		
<p>児童に見られた変容、取組の成果や課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昆虫を恐れていた児童も学芸員の方の説明から、興味をもって見たり、触ってみようとしていた様子も見られた。その場で昆虫の鳴き声や抜け殻、幼虫や成虫の姿など、専門的な説明をしていただくことで児童の興味関心を高めることができた。 ・この学びがこの場で終わることなく、きっかけにして自分たちの住む身の回りの生き物や植物に関心を持ち、環境について考えていくことができる子どもを育てていくことが大切である。 		

学校名		浜田市立松原小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
5	総合的な学習の時間	浜田の海の魅力をさぐる
めあて・目標		浜田の海で遊ぶ活動を通して、浜田の海の魅力を知り、浜田の海への愛着をもつ
関係機関・団体等		浜田市三隅B&G海洋センター、アクアス
実施内容（期日、場所等を含む） ※写真を挿入する。		
<p>日時：令和5年7月6日（木） 場所：田の浦海岸</p> <p>田の浦海岸で、三隅B&G海洋センターの方の指導のもと、海辺の安全教室・海遊びをする班とカヌー体験をする班に分かれて活動を行った。実際に浜田の海に入って遊びを体験することで、浜田の海の魅力を知り、海への愛着を感じられるように活動を計画した。海遊びの楽しさ、海の美しさとともに、海岸には海洋ごみが多くあり、中でもプラスチックゴミが多いことに気づくことができた。</p>		
		
<p>日時：令和5年11月9日（木） ※9月実施予定が天候の都合で11月に延期</p> <p>場所：桧が浦海岸</p> <p>桧が浦海岸で、アクアスの方の指導のもと、釣り体験を行った。初めて釣りを経験する児童も多く、竿に釣り糸をつけたり、えさのゴカイをつり針につけたりと、苦戦しながらも次第に慣れていった。アジやタイ、カサゴ、カワハギなどが釣れ、それぞれ持ち帰った。ゴカイは外来種のため、そのまま海に放すと生態系に影響を及ぼすことや、釣り針（金属）や釣り糸（プラスチック）も、ごみになると数年から数百年も残り続けることなども学んだ。</p>		
		
<p>海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海に実際に入り、楽しむ活動を取り入れることで、その後の総合的な学習の中で取り組む「海を知る」や「海を守る」活動への導入となるように計画した。 		
<p>児童に見られた変容、取組の成果や課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海で遊んだ経験を通して、海に対する愛着や海を守っていきいたいという気持ちをもつことができた。 ・海には様々な海洋ゴミがあり、生物や環境への影響が大きいことに気づくことができた。 ・海での活動は時期を選ぶことと、天候に左右されるので、延期の可能性も含めて早めに計画を立てておくことが必要だと感じた。 		

学校名		浜田市立石見小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
5	総合的な学習の時間	ふるさと浜田・魅力発見！
めあて・目標		浜田の魅力について地域の方にインタビューすることを通して、浜田の水産業に関心を持ち、ふるさとへの愛着を高める。
関係機関・団体等		石見まちづくりセンター
実施内容（期日、場所等を含む）		※写真を挿入する。
<p>1. 実施日 10月12日（木） 14:05～15:10 51名実施（1組25名 2組26名）</p> <p>2. 参加者 5年生51名</p> <p>3. 内容 浜田市にIターンされた地域の方の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に浜田の魅力について聞きたい質問事項を整理しておき、地域の方にインタビューする。 ・話の内容から、さらに聞きたいことを見つけ出し、質問する。 ・感想発表 ・お礼の言葉 		
		
<p>海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期にインターネットを利用して子どもたちなりの浜田の魅力について調べ学習を行った。2学期に地域の方へのインタビュー活動を通して、自分たちの考えとの共通点や相違点を見つけ出すことにより、浜田の魅力についてさらに知りたいという気持ちを高められるようにした。 		
<p>児童に見られた変容、取組の成果や課題等</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・Iターンで生産者として漁師を営んでおられる方に、浜田の海や水産物のすばらしさについて話を聞くことで、浜田の魅力としての確信を深めることができた。 ・浜田の魅力として児童から出てきた「自然」を体験するために、カヌー教室を計画していたが、天候の関係で実施することができなかった。やはり、話だけではなく、実際に体験することで感じられることは多かったと思われるので、実施できるように計画していきたい。 		

学校名		浜田市立美川小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	総合的な学習の時間	内田川の水質調査
めあて・目標		河川の水質の指標となる生物を調べ、河川の環境を評価し、単に水質が良い・悪いではなく、多様性を重視した考え方をもてるようにする。
関係機関・団体等		しまね海洋館アクアス
実施内容（期日、場所等を含む）		※写真を挿入する。
<p>【日時】6月6日（火）13：10～15：30 【活動場所】内田川（消防倉庫の後ろ）</p> <p>島根海洋館アクアスの方から、生き物の採取の仕方について説明を受け、内田川で採取活動を行った。各自、網で生き物を採取したり、石の下に住む生き物を興味深く観察したりした。網ですくう度に、生き物が採れ、心を躍らせながら採取活動を楽しんだ。自分が見つけた生き物を友達に見せる姿や、アクアスの方に生き物の名前を聞く姿が見られ、とても意欲的に活動に取り組んだ。採った生き物は、教室に持ち帰り、どんな生き物がいるのか等を図鑑を使って意欲的に調べた。また、採取した生き物を指標として内田川の水質にしても考察した。</p> <p>その後、川について事前に調べた内容と今回の学習を新パワーポイントや模造紙にまとめた。完成したものは廊下に掲示し、全校に見てもらう機会を作った。この活動を通して、内田川が綺麗な川であることが分かり、この美しいふるさとの川を自分達で守っていききたいという思いを高めることができた。</p>		
   		
<p>海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたい課題を自分達で設定し、川の生き物や内田川について事前に調べ学習を行った。 ・安全面を配慮し、川の活動に適した時期を考えて活動計画を立てた。 ・ふるさと美川の内田川の水質調査を行うことで、ふるさとへの愛着がもてるようにした。 		
<p>児童に見られた変容、取組の成果や課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物を実際に採取することで、川に住む生き物への関心を高めることができた。また、川の生き物を大切に、ふるさとの川をきれいにしていこうという気持ちをもつことができたと思われる。 ・川で遊ぶ子どもが少なくなっている中で、アクアスの方の協力により貴重な体験をすることができた。 		

学校名		浜田市立周布小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
3	総合	くらし発見浜田のじまん
めあて・目標		浜田の漁業について学習する活動を通して、ふるさとに対する誇りや大切にしようとする気持ちを育てる。
関係機関・団体等		浜田港公設市場
実施内容（期日、場所等を含む） ※写真を挿入する。		
<p>期日： 7月10日（月） 【浜田港公設市場】</p> <p>浜田市の重要産業の一つである漁業について学ぶために浜田港公設市場を見学した。浜田市役所水産振興課の方のご協力のもと、お魚センターを見学したり、漁港の方々に話を聞いたりすることで浜田の魅力を深く理解する機会を設けた。</p>		
		
ふるさと教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
<p>浜田市の名産が魚であるという認識はあるが、その理由まで詳しく知っている児童は少ない。また、実際の漁の様子や漁港の役割について、詳しく知っている児童も少なかった。今回は座学と見学を組み合わせることで学習を進めた。まずは座学で漁の仕組みや漁港の役割、また他の地域と浜田港の違いについて学んだ。その後の見学では、漁港の設備について実感をもって学ぶことができ、いかに浜田の漁業がふるさとの自慢であるかを学ぶことができた。</p>		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
<p>調べ学習や体験学習を通して、浜田市が全国的にも指折りの漁港をもつことが分かった。今回は実際に漁船内を見せていただくことができた。普段知ることのできない裏側を見ることで、子ども達の関心も高まり、その後の調べ活動やまとめ活動にも意欲的に取り組むことにつながった。</p>		

学校名		浜田市立長浜小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	総合的な学習の時間	熱田海岸の清掃
めあて・目標		海岸の清掃活動をしている人の取り組みや思いを知って、環境を大切にしようという気持ちを高める。
関係機関・団体等		地域のボランティア
実施内容（期日、場所等を含む） ※写真を挿入する。		
<p>6月23日（金）、熱田海岸にて清掃活動を行った。日頃から海岸清掃ボランティアに取り組んでおられる地域の方にもご協力いただき、一緒に取り組んだ。</p> <p>海水浴のシーズン前であったが、たくさんのごみがあった。発泡スチロール、釣りのうき、プラスチック、外国の文字が書かれたごみなど、種類は様々だった。ごみ拾いの後は、拾ったごみを「可燃」「不燃」の2種類に分別することにも挑戦した。どちらに分別したらよいかわからないものもあり、地域の方に教えていただきながら取り組む姿も見られた。</p> <p>活動の最後には、地域の方のお話を聞いたり、質問をしたりした。児童からは「なぜ自主的にごみを拾っているのか。」「普段どのようなごみが多いか。」といった質問があった。児童は、身近な海岸のごみの多さ、それらを拾うことの大変さ、そしてそれをボランティアでしてくださっていることへの有難さを感じることができた。</p>		
 		
<p>海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）</p>		
<p>○ボランティア活動に取り組んでおられる地域の方との交流</p> <p>日頃からボランティアとして活動しておられる地域の方と一緒に取り組むことで、児童にとって身近な自然環境を守ってくださっていることの有難さを感じ、自分たちも環境を守っていこうとする気持ちが高まるようにする。</p>		
<p>児童に見られた変容、取組の成果や課題等</p>		
<p>○自分たちにとって身近な自然環境である海岸をきれいにしようと熱心に活動する姿が見られた。</p> <p>○地域のために日頃から活動しておられるボランティアの方々の活動や思いを知り、きれいな環境を大切にしていこうという思いをもつことができた。</p>		

学校名		浜田市立国府小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
4	総合的な学習の時間	こくふっこ環境調査隊 [ふるさと国府の海]
めあて・目標		地域の川や海の水質調査をとおして、水辺の環境保全に興味をもち、環境を守る活動や環境の大切さを発信する取組から、ふるさとの自然を守っていこうとする態度を育てる。
関係機関・団体等		しまね海洋館アクアス・浜田市役所環境課・まちづくりセンター・渚の交番be
実施内容（期日、場所等を含む） ※写真を挿入する。		
<p>1 課題設定〔活動の中から問題意識をもち課題を設定する〕（25時間） ふるさとの海（豊ヶ浦）と川（下府川）をフィールドワークして、生き物が豊かに暮らす環境があるかを調査した（写真①）ところ、きれいな水質でない生きられない生き物が多く生息しているということが分かった。しかし、海岸にたくさんのごみが打ち上げられていることに気が付き、海や川の生き物を守るために環境をよくする取組を学習課題として設定した。</p> <p>2 探究的な学習〔問題についての知識を広げていく〕（15時間） ふるさとの海の環境をよくするために国府海岸のごみ拾い計画を立てた。公民館をとおしてポスターを配り、ごみ拾いの参加者を募ったところ、地域の方が集まり、たくさんのごみを集めることができた（写真②）。続いて、拾い集めたごみはどこからきたものか、環境にどのような影響を与えているかについて、市役所の環境課やアクアスの方から教えていただいた（写真③④）。海岸にあるごみの大半が日本のごみであること、大量のプラスチックごみが生き物の命を脅かしていることを知り、危機感を募らせる児童が多かった。</p> <p>3 課題解決的な学習〔自分達で考えた解決の方法をやる〕（14時間） 環境を守るために、本で調べた方法や環境課の方から教わった方法を実生活で生かそうと考えた。まず、活動をとおして書き溜めてきたポートフォリオの中から、学んだことや活動の感想を抜き出して台本にして、劇の形で保護者に発表した（写真⑤）。スライドにまとめた物も掲示した。「ふるさとの海をみんなで守りましょうというメッセージを伝えられて嬉しかった」という思いをもつ児童が多かった。</p> <p>4 学習のまとめと振り返り〔1年間の学習をとおして学んだことを振り返る〕（8時間） 児童は環境についての活動をとおしてどんな学びがあったかをグループごとに話し合い、環境への意識が高まっていることにみんなで気付くことができた。</p>		    
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
活動ごとに全体での振り返りの時間を取り、学習の方向性を児童が考えられるようにすることで、ふるさとの海の環境を自分達で守りたいという主体的な学習になった。また、地域の方と一緒に活動する時間を設定することで、地域の方々の海への思いを児童が直接感じられる場面が多く見られた。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
1年間の活動をとおして、ふるさとの海への愛着が増し、環境を守ろうという実践意欲が高まった。しかし、環境問題を考えていく時には、問題の背景となる社会的な知識をどのように学ばせていくかということが本実践の課題として残った。		

令和5年度海洋教育・自然体験推進事業（小学校） 特色ある実践事例

学校名		浜田市立三階小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
5	総合・社会	浜田の海や水産業について学ぼう
めあて・目標		<ul style="list-style-type: none"> ・浜田市の海・水産業への興味・関心を高める。 ・水産業について、調べたり、話を聞いたり、見学したりしたことをまとめる。
関係機関・団体等		島根県水産技術センター・アクアス
実施内容（期日、場所等を含む） ※写真を挿入する。		
 <p>島根県水産技術センターの見学（9月11日）</p>		 <p>釣り体験（10月24日）</p>
<p>1. 浜田の海や水産業について学ぼう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを活用して、水産業について調べた。 ・島根県水産技術センターへ行き、センターの方の話を聞いたり、施設内を見学したりした。 ・浜田市の水産業について調べたことを新聞にまとめた。 ・釣り体験の事前学習では、アクアスの職員の方にご指導いただきながら、しかけづくりについて学習した。自分で作ったしかけで、桧ヶ浦で釣りを体験した。 		
<p>海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専門的な立場の方（島根県水産技術センターの方）からの話を聞く学習を設定したこと。 ○島根県水産技術センターの施設見学を設定したこと。 ○水産業をより身近に感じることができるよう、体験を取り入れた。 		
<p>児童に見られた変容、取組の成果や課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○浜田市の水産業について本やインターネットで調べたり、話を聞いたりすることを通して、浜田市の海や水産業への興味・関心が高まった。 ○水産資源の豊かさに気付き、浜田市の海、水産業は浜田の誇りであると考えていた。また、釣り体験を通して、浜田の海により愛着をもつことができた。 ○浜田市の水産業について学んだことを、一人1枚の新聞にまとめて、発信した。写真やグラフを使い、読み手にわかりやすく伝える力を伸ばすことができた。 		

学校名		浜田市立雲城小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
3	総合的な学習の時間	カヌー体験・水辺の安全教室
めあて・目標		<ul style="list-style-type: none"> ・浜田市がふるさと教育として推進するカヌー体験をすることで、ふるさとの愛着を深めたり、よさを感じたりする。 ・友達と助け合ったり協力したりすることの楽しさや喜びを感じる。 ・バスの乗り方やJRや公共施設の利用の仕方などを知ると共に、公衆道徳を身につけ、施設や働く人の様子を知る。
関係機関・団体等		三隅B&G海洋センター
実施内容（期日、場所等を含む） ※写真を挿入する。		
<p>毎年雲城小学校では、上記のねらいのもと、3年生を対象にカヌー体験を行っている。例年は三隅B&G海洋センターの方にお世話になり、アクア三隅を会場に実施してきたが、今年度の3年生は人数が多く、プールでは十分な活動ができないため、三隅B&G海洋センター近くの田の浦海岸を会場として7月7日に実施した。海での活動となり、安全面も心配されるので、保護者の有志の方を募り、当日の児童の安全面の見守りやカヌー操作が難しい児童と一緒に2人乗りのカヌーに乗っていただいたり、カヌーの片づけ等手伝っていただいたりした。</p> <p>活動では、初めにライフジャケットを装着し、海水に身を任せて「浮く」体験を行い、水辺の活動で命を守るライフジャケットの大切さを実感することができた。次に、カヌー体験や水辺の安全教室・水遊びを行った。</p> <p>カヌーを怖がることなく乗りこなす子やイカの卵を見つけて手で持って見せる子もおり、たくさん自然とかかわり、いきいきと活動する子ども達の姿を見ることができた。また、友だちと互いに励まし合って、一緒に笑い合いながら、おもいきり水辺を楽しむことができた。本校の児童は海に行く機会があるものの、カヌーの体験をしたことがある児童は少なく、今回の活動を通して浜田の海の美しさやマリンスポーツの楽しさを実感することができた。</p> <p>活動後には、お世話になった三隅B&G海洋センターの方にお礼の手紙を書いた。</p>		
		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
<ul style="list-style-type: none"> ・教科横断的な学習になるように社会科、道徳、総合的な学習の時間等を相互に関連づけながら体験的な活動内容を考え、実施したこと。 		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間に学んだ他の内容と関連付け浜田の魅力を感じ、もっと体験したい、知りたい、学びたいという意欲が高まった。 		

学校名		浜田市立今福小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
2	生活科	生きものなかよし大きくせん
めあて・目標		美川地区の追原川にどんな生き物がいるか採取して観察し、学習したことを伝えよう。
関係機関・団体等		しまね海洋館アクアス、美又まちづくりセンター
実施内容（期日、場所等を含む） ※写真を挿入する。		
<p>【日時】令和5年8月31日（木）9：00～11：40 【活動場所】美又地区追原川</p> <p>はじめに、しまね海洋館アクアスの方から、川での生き物の採り方について説明を受けた。川下から川へ入り、採取活動を始めた。各自が、たもで草の生えているところをつつき、生き物をすくい上げてバケツに入れたり、水の中を興味深く観察したりした。自分が見つけた生き物を嬉しそうに周囲の友達に見せる姿や、アクアスの方に進んで声をかけて自分が採った生き物の名前を教えてもらう姿が見られ、どの子も意欲的に活動に取り組んでいた。川の流れに緊張して、川の中をよく見ながら恐る恐る進む子どもの様子も見られたが、それも一生懸命な姿であった。</p> <p>アクアスの方が、採った生き物を仲間に分け、一つ一つ説明してくださった。自分たちが採った川の生き物を見ながら、名前や特徴、気をつけることなどを教えてもらい、とても真剣に聞いていた。採った生き物は、その後川へ戻した。</p> <p>学校では、自分が興味をもった生き物について絵を描いたりより詳しく調べる活動を行ったりした。学習発表会では、追原川で採った生き物について保護者や地域の方に発表した。</p>		
		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
<ul style="list-style-type: none"> ・安全面を考慮し、適した時期を考えて活動計画を立てた。 ・関係機関と事前の打合せをし、学習のねらいや活動の内容などの共通理解を図った。 ・活動に関連のある本を教室に置くことで、意欲を高めたり調べ学習に役立てたりした。 		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな生き物を自分の手で採取することができ、ふるさとの川にすむ生き物への関心を高めることができた。はじめは恐る恐る活動していた児童も、慣れてくると石の上から生き物を採ろうとしたり、友達の採った生き物を観察したりしていた。 ・児童が知っている生き物だけでなく、初めて見る生き物も採取することができた。アクアスの方の専門的な話を聞くことで、児童の関心の高まりを感じた。 ・アクアスの方とまちづくりセンターの協力により、日頃できない貴重な体験ができた。ふるさと浜田のよさや地域の人々の温かさを感じることのできる活動となった。 		

学校名		浜田市立波佐小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
全	総合的な学習の時間 生活科 家庭科	しめ飾り作り
めあて・目標		○新年を迎えるにあたり、無病息災を祈りながらしめ飾りを作ろうとする。 ○古来の伝統を受け継ぎ、大切にしていこうとする意識を高める。 ○まちづくりセンターや地域の方の協力を得て、この活動ができていることを理解し、積極的に地域の大人にかかわることができる。
関係機関・団体等		波佐まちづくりセンター
実施内容（期日、場所等を含む） ※写真を挿入する。		
○期日及び場所 期日：令和5年 12月 21日（水） 場所：ときわ会館		
 <p>9名の地域の方が集まってくださいました</p>		 <p>藁をやわらかくします</p>
		<p>6年生ともなると、初めて作る教員よりも上手にしめ飾りを作ることができます。1年ごとの積み重ねの大切さを感じました。1・2年生もできるところは（稲束をねじる）頑張りました。</p>
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
しめ飾り作りは、地域の方に教えていただきながら、本校で毎年行っている恒例行事であり、米作り最後の活動である。春に植えた稲が大きくなり、穂をつけ、収穫できるまでに成長し、その稲を使って新年を迎える準備をすることは、昔はどこ家庭でも行ってきたことであるが、今では作ることも買うことが一般化している。しめ飾りを作る準備として、稲束をそぐったり（きれいに整えること）、稲をやわらかくしたりする活動がある。今年度は低学年もこの活動に参加させてもらい、作成するまでの苦労を知ることができた。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
児童・教職員全員が達成感に包まれた活動だった。波佐地域に誇りをもつとともに、今後も児童に経験させていきたい活動の一つであると考えている。		

学校名		浜田市立旭小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
3	総合	カヌー体験&水辺の安全教室
めあて・目標		浜田市の宝である「海」での自然体験活動を通して、海の大切さや海で遊ぶ楽しさを実感し、ふるさとへの誇りと愛着をもつことができる。
関係機関・団体等		三隅B&G海洋センター
実施内容（期日、場所等を含む）		※写真を挿入する。
<p>7月18日（火）、田の浦海岸、三隅B&G海洋センター艇庫前の海岸で、カヌー体験と水辺の安全教室を行った。</p> <p>最初に三隅B&G海洋センターの方から、水辺の安全について説明を受けた。児童は、説明を聞き、水に対する怖さを感じるとともに、安全に活動しようとする意識が高まった。</p> <p>その後、カヌー体験を行った。活動中は、カヌーに慣れることで、安全に操作できるようになった。また、最初は、怖がっていた児童もいたが、ライフジャケットを着ていることで、安心して活動することができた。</p> <p>児童は、時間いっぱい熱中してカヌー体験に取り組んでいた。また、体験したいという感想が多く、普段は体験できない水辺の活動の魅力を感じていた。ぜひ海上での体験を今後も継続したいと考えている。</p>		 
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 海からは離れた地域に住んでいるので、海等で扱う器具を使用し、五感で体験できるようにした。 ○ 三隅B&G海洋センターの方に講師を依頼し、海の安全について指導してもらうことで、海に対する興味・関心が高まるようにした。 		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 講師の方に水辺の安全についての話をしていただくことで、水辺の安全への興味・関心が高まった。 ○ 初めてカヌー体験をする児童が多く、最初は怖がっていた児童もいたが、ライフジャケットの安全性を実感したり、やカヌーの操作に熱中したりすることにより、水辺での活動の楽しさを実感することができた。 		

令和5年度海洋教育・自然体験推進事業（小学校）特色ある実践事例

学校名		浜田市立弥栄小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
全校	総合	地域の良さを知ろう
めあて・目標		浜田の海での体験を通して、地域の自然の良さを知る
関係機関・団体等		渚の交番be
実施内容（期日、場所等を含む） ※写真を挿入する。		
1	期日	令和5年9月12日（火）9：00～12：00
2	場所	渚の交番be（浜田市瀬戸ヶ島町）
3	内容	<p>「海に親しみ、豊かな感受性や興味関心等を培い、体を動かしながら海に進んで関わろうとする態度を養う」「海の自然や資源、それを取りまく人や社会との深い関わりやその歴史について関心をもつ」ことを活動の目標に掲げ、「渚の交番be」の方の指導を受けながら、「釣り体験」を行った。</p> <p>最初に浜田ライフセービングクラブでの活動にもかかわっておられるスタッフのお話を聞いた。「安全ということに加えてふるさと浜田の海の美しさや、自身が活動を始めた理由なども聞くことができた。以下、子どもたちの感想である。</p> <p>◆わたしは、釣り体験をして、とても楽しいなあと思いました。魚をからあげにして食べました。とてもおいしかったです。とくにアジがおいしかったです。ゴミを拾って、動物がまちがえて食べないようにしたいです。また、瀬戸ヶ島に行きたいと思いました。わたしたちが釣った魚は、あじ、ネンブツダイ、ベラ、スズメダイです。全部で8匹つりました。釣り体験の準備をしてくださってありがとうございました。とても楽しかったです。◆</p>
		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
<p>誇りを持って活動しておられるスタッフの話を体験前に聞くことは今後も続けたい。子どもたちが海の安全や環境を守る意欲をもち、浜田の海に愛着と誇りを持つためにも、楽しい「釣り体験」に加えて、さらに浜田の海や港の歴史・経済・人物に係る話を聞かせたい。例えば、『ふるさと50人』の梶目甚一、丸川久俊の話、『ふるさと浜田の歩み』の中世、近世、近代の港の話などもこの活動に合わせて子どもたちに伝えていきたい。</p>		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
<p>「海に親しみ、豊かな感受性や興味関心等を培い、体を動かしながら海に進んで関わろうとする態度を養う」という目標はおおむね達成できた。今後も、楽しい体験、郷土の自然・海洋に対しての愛着と誇りを育てる教育活動を計画、実行したい。</p>		

学校名		浜田市立三隅小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
3	社会科	はたらく人と私たちの暮らし
めあて・目標		地域に見られる農家の仕事について、仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることで生産に携わっている人々の仕事の様子をとらえ、地域の人々の生活との関連を考え、表現することを通して、農家の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。
関係機関・団体等		平原柿園，白砂まちづくりセンター
実施内容（期日、場所等を含む） ※写真を挿入する。		
<p>1. 社会科の時間に、地域の農家の仕事について学習する。（6～7月）</p> <p>2. 三隅の特産品である「西条柿」について、農家の方から話を聞いたり、実際に農作業を体験したりする。</p> <p>【摘果作業 7月】</p>		
  		
<p>【収穫作業 10月】</p>		
  		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
○社会科の学習の中で、自分たちの身近にある農産物に気づかせることで、子どもたちの関心を高め、調査活動や体験活動に繋がるように計画した。		
児童に見られた変容、取組の成果や課題等		
○身近な「西条柿」が、地域の方の工夫や努力によって作られ、支えられていることに気づくと共に、「西条柿」が三隅地域の特産物になった歴史等も調べることができた。これらの活動から、子どもたちはより「西条柿」に親しみを覚え、大事にしていこうとする心情を育むことができたように思う。		

学校名		浜田市立岡見小学校
学年	教科等	学習・活動の名称
3・4	総合	三隅のじまんを紹介しよう
めあて・目標		西条柿を通じて地域や自然とのつながりを感じ、自分たちでできることを考え、実行しようとする態度を育てる。
関係機関・団体等		営農組合・東平原柿園・美川選果場・白砂まちづくりセンター
実施内容（期日、場所等を含む） ※写真を挿入する。		
<p>○7月4日 東平原柿園</p> <p>この日までに、営農組合の方に学校へ来ていただき、柿についての話をうかがった。</p> <p>柿の摘果作業を行うことで、おいしい柿を収穫するために、様々な工夫があることに気づいた。</p>		
<p>○10月17日 東平原柿園・美川選果場</p> <p>収穫の喜びを味わうとともに、一つ一つ丁寧に収穫している様子を知った。また、選果場では、糖度を測ったり、大きさごとに選別したりする様子を見学することとおして、「出荷」するために必要な観点にも気づくことができた。</p>		
<p>○11月2日 干し柿づくり</p> <p>白砂まちづくりセンターの方に来ていただき、実際に干し柿を作る作業を経験した。天候や気温に左右されやすい干し柿づくりだが、幸い気象条件にも恵まれ、11月末にはおいしい干し柿をみんなで試食することができた。</p>		
<p>海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）</p> <p>地元の特産品である西条柿の栽培について、ほぼ年間を通して体験できる貴重な機会であるので、単なる体験活動で終わらせないよう、折々に調べ学習や発表活動、また、他教科でもこの題材を取り扱うなど、多角的な学習を計画した。</p> <p>児童の体験を地域へ発表する方法として、総合的な学習の時間「柿作業カレンダー」を作成し、それを地域のまちづくりセンターや駅などに掲示させてもらった。</p>		
<p>児童に見られた変容、取組の成果や課題等</p> <p>「みすみっ子カレー」に、隠し味として西条柿が使用されているというところから、その秘密を調べはじめた学習であった。児童は、地元の柿栽培の工夫に触れ、また、実際に食べたり干し柿を作ったりした経験から、その品質にも大いに満足し、地元の特産品に誇りを持った様子がうかがえた。また、国語の学習「ふるさとの食をつたえよう」で、西条柿を扱う児童がいたり、学習のまとめ発表会で、西条柿のクイズを作成したグループがあったり、この取組を広げている児童の姿も見ることができた。</p>		

幼稚園名	浜田市立浜田幼稚園	
対象	学び・活動の名称	
全園児	茶摘み体験をしよう	
めあて・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を感じながら、茶摘み体験や茶畑で遊ぶなど、解放感や楽しさを味わう。 ・お茶入りの牛乳パックケーキをみんなで作ることを楽しむ。 	
関係機関・団体等	扇原茶園	
活動の概要（期日、場所等を含む） ※写真を挿入する。		
期日	令和5年10月27日（金）	
場所	扇原茶園 浜田市田橋町	
参加者	園児：26名 職員：7名	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・扇原茶園での仕事やお茶に関する話を聞く。 ・茶摘みをする。 ・抹茶の牛乳パックケーキ作りをする。 ・秋の自然を感じながら、みんなでお弁当を食べる。 ・高台の茶畑にも行き、思いきり体を動かして遊ぶ。 	
		
海洋教育・自然体験の目的にせまるための活動づくりのポイント（工夫したこと）		
<ul style="list-style-type: none"> ・計画の際には、園生活や遊びの様子を踏まえながら打ち合わせをすることで、子ども達が楽しめそうなお茶を使ったクッキングや体験ができるようにする。 ・医療的ケア児が活動に参加することから、より安全面に配慮をした計画を立てる。 ・子ども達にわかりやすいように、お茶の作り方についてパネルを用いて説明してもらう。 ・全園児で山を登って高台の茶畑にも行ってみることで、秋の自然を感じることができるようになる。 		
園児に見られた変容、取組の成果や課題等		
<ul style="list-style-type: none"> ・天候の良い日であったため、茶摘みをしたり戸外で弁当を食べたりし、のびのびと活動することができた。 ・講師の佐々木さんに茶摘みについてわからないことや気になったことを積極的に聞く様子が見られる等、主体的な体験に繋がっていた。 ・医療的ケア児と一緒に活動するという事で、バギーが通りやすいように道を考えたり、安全に過ごせるような場所を確保したりする配慮が必要であった。今後も、計画段階から、下見を含め丁寧に打ち合わせを行っていきたい。 		